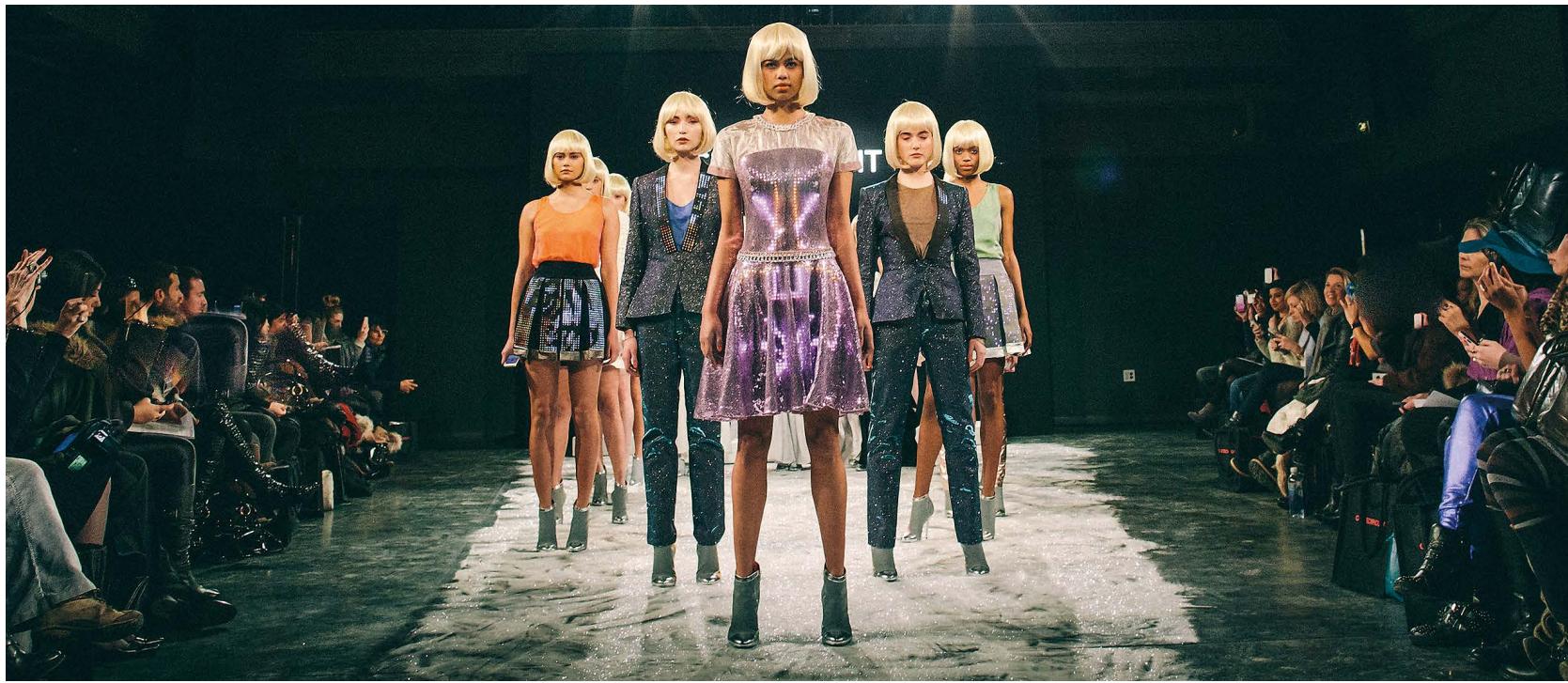


未来は今

Angela Cavalca

ファッション企業はテクノロジーの世界に足を踏み入れ、
今、服の概念を変える技術を生み出している。



CuteCircuit

"ナビゲートジャケットは、振動を利用して、パリやNY、シドニーなどの街案内を行う機能を備えている"

服が日常のハイテクツールになり、体温を調節したり、サービスを利用したり、周りの環境や人と人を繋げる媒体としての役割を果たす日もそう遠くはないだろう。これまで常に、繊維やテキスタイルが、パフォーマンス性の高いアクティブウェアを製造する上で重要な役割を担ってきたが、現在、ラグジュアリースポーツウェアのファッショングループはさらにテクニカルな方向へと進んでいる。その最たる例がラルフ ローレンだ。ラルフ ローレンは、リアルタイムのバイオメトリックデータをスマートフォンで直接ストリーミング/トラッキングできる、ポロテックシャツを開発した。一方、ラ・マルティナの新作アルミニア・ウェアラブルポロは、独自の熱伝導性を備えており、特殊な発光ストライプで夜間の安全性を確保している。リーバイスと初めて公式パートナー契約を締結したGoogleは、新しい「Project Jacquard」を立ち上げており、インターラクティブジーンズも近いうちに市場に登場するだろう。このプロジェクトは、タッチとジェスチャーのインターラクティビティを、通常の工業用織機を使ってテキスタイルに織り込む技術を備えている。過去数年間、新進ブランドもまた、Teiimoの加熱レザージャケット、内蔵式bluetoothシステム、マイク、スピーカー、携帯充電器などで、アウターウェアの中にウェアラブルな技術を活用する取り組みを始めている。Wearable Experimentsのナビゲートジャケットは、微妙な振動を利用して、パリやNY、シドニーなどの街案内を行う機能を備えて

いる。プレタポルテやオートクチュールの世界でも、テクノロジーのタッチに感情のセンサーを加えたいと考えている。オートクチュールや特別プロジェクトにe-テキスタイルを採用しているCuteCircuitは、身に着ける人が服に内蔵されているセンサーを通して“電子ハグ”を送信することができる“Hug Shirt”を製造した。また同社は、悪名高き“Twitter Dress”という、ツイートをリアルタイムで受信できる服も作っている。最近のキャットウォークで目撃されてきたが、照明が感情を伝達するツールとして注目されており、若いブランドは、ElektroCoutureのように光を放つインサートや、Rainbow Wintersのように、音や日光、水などに反応して色に変化が生まれるインタラクティブなファブリックを使うことを楽しんでいた。さらに先を見れば、Electroloomのような新進企業は3D技術で実験を行い、世界初の3D生地プリンターを製造した。これは通常、コットンやポリエステルなどに使用される、生地用の液体を噴射することで

自分だけの服をデザイン／制作する新しい方法だ。

これに平行して、様々なプロジェクトが開発され、国際会議も催され、プレミアム展示会がオーガナイズしている#FashionTech Berlinのように、新しい機会や注目のアイデア、ビジネスモデルについての議論が促されている。未来はすでに今、始まっている。問題は、どのように繋がっていくかということだけなのだ。